

# Dream Plan

平成 26 年度ドリームプラン

デザインフェスタ vol.40 (2014)

高さ 3.6m×幅 8m 巨大ライブペイントに挑戦する

家政学部造形表現学科 松田 理生

『この横顔、すごく好きです。がんばってください。』

初めて出会った女子高生が私の絵を見ていってくれた言葉だ。11月8日・9日、東京家政大学後援会ドリームプランの援助のもと、デザインフェスタ vol.40 で巨大ライブペイントに出展した。8m.3m の壁面という初めてのサイズに戸惑い、形になるのかという不安を感じながら描いていたときだった。その女子高生に声をかけられてから、それまで感じていた不安が消え、どんどん制作が進むようになった。女子高生以外にも、制作中、たくさんの方に、暖かい声をかけていただいた。そのたびに、刺激をもらいながら絵を描くことができた。当日用に 200 枚用意していた無料配布の名刺、DM は全て無くなり、同ブースに販売していたポストカードは、二日間で 62 枚売り上げた。たくさんの方が、自分の絵を見てくれること、気に入ってくれたことに感動し、いい絵を作り上げたいという思いが強くなった。



完成した作品のタイトルは「私の中の私達」。

当日、壁面を前にして、不安、緊張、楽しさなど、様々な感情をもっている自分に気づき、そういったものを描きたいと思った。人は、楽しいときに、「楽しい」とだけ思っているわけではない。誰もが複数の感情を持ちながら、そこに立っているのだということを、表現しようと思った。

巨大な横顔をメインに、小さな横顔を少しずつ描き加えた。あえて、一人ひとりの表情をわかりやすく描かなかったのは、喜怒哀楽以外の複雑な感情を表現したいと思ったためだ。よく見ると口の端があがっていたり、一人だけ目が見開いていたり、じっくり見ても楽しんでもらえるような構成になるよう心掛けた。

また、ライブペイント中、絵を描く以外に心掛けたことがある。それは、「人と話すこと」。

自分の絵を見に来てくれた人と話す。自分の作品のために立ち止まってくれたことへの感謝の気持ちを伝える。それは、絵を完成させることよりも、重要なことだと思った。できる限り意識しながら、コミュニケーションをとるよう心掛けた。造形表現学科で美術を学ぶ中で、アートには人と人をつなぐ力、または、コミュニケーションを円滑にする力があると考えられるようになった。展示会やこうしたイベントでライブペイントをさせていただくなかで、性別、国籍、世代を超えて、多くの人との出会いがあった。その出会いが、今の私を作っていると思ったのだ。

今回のライブペイントにも、たくさんの新しい出会いがあった。私の作品を、少しでも気に入ってくれた人を裏切らないよう、全力で制作に取り組んだ。

当日は、制作に集中するため、9人の友達がスタッフとして応援にきてくれた。(1日目4人、2日目5人) スタッフは、売り子や絵の説明、はしごの移動、絵の具の受け渡しなどを担当してくれた。

友達、家族、尊敬する先輩、後輩、初めて会った方、そして東京家政大学後援会に関わる方々に応援していただくなか、一生のうちで、こんなに幸せを感じながら絵を描くことができる時間はないのではないかと思った。人とのつながりを感じながら制作を進めることができるライブペイントの魅力を、いつも以上に実感しながら、取り組むことができた。ライブペイントは、デザインフェスタ終了1時間前に完成した。制作時間は、およそ16時間。励ましてくれた方、アドバイスくれた方、手伝いに来てくれた仲間たちがいたから、最後までやりとげることができたと思う。自分ひとりの力だけでなく、応援してくれた多くの人達と共に、描きあげることが出来たのだと思った。

今回の経験から、アートには人を繋げる力があるということ、自分は絵が好きだということを改めて気づかされた。この経験をさせてくれた東京家政大学後援会の皆様、応援してくれた方々に心から感謝の気持ちを伝えたい。